

はじめに

——難度の高い長文問題の得点力を上げたいあなたに——

「ハイレベル大学の難度の高い長文問題が解けるようになりたい」と考えている受験生はたくさんいます。確かに、英文を読むためには、語彙力も文法力も必要です。でも、かなりの語彙も覚え、文法もくり返しやったのに「難しい長文になるとどうしてよいかわからなくなる」という人は数多くいます。ハイレベル大学の受験において、長文で点が取れないということは、合否に直結する大問題です。さあ、あなたならどうしますか？

本書は、やや難レベルから難レベルの長文問題を16題収録し、「難度の高い長文で点数を伸ばしライバルに差をつけたい」という受験生に対して、入試問題を解くにはどのような視点から、どうアプローチしていけばよいかを徹底的に解説し、どうすれば得点力が上がるかを追求した問題集です。

まず、私たちはこれまでに出版されている数多くの長文問題の傾向を調べ、長文で出題される問題の中で、「空所補充問題」、「パラフレーズ（語句言い換え）問題」、「内容一致問題」、「説明問題」、「下線部和訳問題」の5種類が主な出題パターンであると考えました。そして、本書に掲載されたすべての長文問題には、この5つの問題形式が必ずすべてバランス良く含まれるように作り替えたのです。

問題作成にはかなりの労力が必要だったのですが、こちらで意図的に作問することで、問題のレベルをそろえることも、よく出題される問題を入れ込むことも、悪問や観点の重複した問題をカットすることも可能になったのです。また本書に掲載された長文素材は、莫大な数の入試問題を吟味し、特定の大学・特定の分野に偏ることなく選定された、良質のものであり、ここに「長文問題の頻出パターンを効率よくトレーニングできる問題集」が生まれたのです。

それではみなさん、本書で「難度の高い長文問題の解き方」をしっかりとマスターして、長文の点数を伸ばし、長文をさらに得意分野にしていましょーう！ 問題の正しい解き方を本書で知り、それをみなさんの受ける大学の過去問でも試してみてください。きっと得点力が上がることでしょーう。

そして、皆さんの夢（＝志望大学合格）を実現してください。

本書が目指した7つのこだわり

①英文選定のこだわり

過去の入試問題の中から、良質の英文で構成され、繰り返し出題されそうな頻出のテーマや興味深いテーマを抜けているものを偏りなくセレクト。

②問題形式へのこだわり

1つの長文に、大学入試に出題される主要な形式（空所補充・パラフレイズ・内容一致・説明・和訳・要約）をすべて入れ込み、偏りのない全方位的な実戦トレーニングができます。

③問題の質に対するこだわり

問題を1つひとつ見直し、レベルにあった問題や頻出の問題を意図的に作問。出題項目が重複することもなく効率よいトレーニングができます。

④採点基準に対するこだわり

すべての問題は50点満点のテスト形式。選択式問題だけでなく、記述式問題にも採点基準を設けることによって、模試を受ける感覚で自分の実力把握が客観的に行え、弱点の見極めができます。

⑤レベルに対するこだわり

レベル別の3分冊にすることで、細やかなレベル対応が可能。1冊の中でも長文の語数の少ない素材から語数の多い素材へと配列し、段階的に得点力が養成できるようにしました。

⑥語彙に対するこだわり

語彙については、語句リストを掲載することで対応しました。語句リストの訳語には、基本的に本文で用いられている意味を中心に掲載しました。

⑦速読に対するこだわり

すべての英文には「論理チャート」をつけ、パラグラフごとにどのような展開になっているかを視覚的に見ることができるようになりました。また設問に関わる空所や下線などをすべて取り去った英文全文を別に掲載することによって、復習時に速読トレーニングがスムーズにできるようになりました。

本書の使い方

1 制限時間を意識して問題を解く

本書は問題を制限時間内にどのように解くかを実践的に体感する本です。みなさんも、制限時間を意識して問題を解いてください。また、内容理解を深めるためにどの問題にも「100字要約」の解答をつけてあります。みなさんの受験する大学に要約問題が出題される場合には、問題を解いた後にチャレンジしてみましょう。

2 問題の解説を読み採点する

すべての問題を50点満点のテストだと考えてください。解答を作成したら自分の答案を客観的に見つけ、採点基準に従って採点してみましょう。合格点は70%、すなわち35点、目標点は80%、すなわち40点です。

3 特に間違った問題は重点的に解説を読みチェックする

本書は問題を解くトレーニングを行うことが最大の目的です。問題を解くポイントはどこにあるのかを理解し、それを次の長文問題に活用していくことが最も重要です。

4 知らない単語については語句リストでチェックし暗記する

本書は語彙に徹底的にこだわっています。語句リストは本書専用の単語集・熟語集だと思ってください。もし、語彙力に不安のある人がいれば、語句リストをまず覚えてから問題にトライしても構いません。ただし、学習後には必ず覚える習慣をつけて、生きた語彙を増やしていきましょう。

5 「論理チャート」でパラグラフごとの論理展開を確認する

本書のすべての問題には「論理チャート」がついています。「論理チャート」はパラグラフごとの論理展開を明示したもので、パラグラフごとの内容を確認し、その相互関係をチェックするという、「パラグラフリーディング」の基本習慣を身につけるために有効なものですので、積極的に学習に取り入れていきましょう。

＊「パラグラフリーディング」に興味のある人は、『英語長文読解の王道 パラグラフリーディングのストラテジー ①読み方・解き方編』（河合出版）をお薦めします。論理的な読み方・解き方の学習が可能です。

6 空所や下線のない生の英文を読み、できれば音読することで、英文のリズムを感じ取り速読演習を行う

最終的には、問題の付いていない生の英文で、速読のトレーニングを行いましょう。そこでは語句リストに掲載している覚えるべき語句が太字になっていますので、速読力が増すだけでなく、文脈の中で効率よく語彙を増やせます。

7 一度全部解き終わったら、語句リストで語彙を増やして再度チャレンジする

本書は、何度も読み、何度も解くにふさわしい素材と設問のオンパレードです。決して一度解いただけで終わらずに、時間をおいて再度チャレンジしてみてください。語句リストを覚えてから再チャレンジすると、語彙面でつまることなく、問題の解き方にしっかりと焦点を当てて読み進めることができます。この2回目のチャレンジで解き方はかなり定着しますので、是非とも「全問再チャレンジ」にトライしてみてください。

8 直前期には自分の受ける大学の問題形式や苦手な問題形式に合わせて解くことも可能

本書は、1つの問題に主要な設問形式がバランス良く含まれていますから、解答作成力を偏りなく身につけることができます。さらに、直前期に本書を利用する場合には、皆さんの志望する大学の傾向や自分の苦手な問題に合わせて、解く問題を決めることもできます。それを容易にするため、客観式（マーク式）の設問を前半に、記述式の設問を後半に固めてあります。例えば、「自分の受ける大学はすべて客観式の設問で、記述問題は出題されない」ということになれば、記述問題は外して解くといった使い方も可能です。

本書はこれ以外にも、皆さんの志望大学、皆さん自身の英語力、また使う時期などによって、様々な使い方ができるように作成されています。皆さんの方でもいろいろと工夫をして、自分に最もあった効果的な使い方を考えてみてください。

■解説中の略号・記号について■

S：主語（従属節の場合はS'） V：動詞（従属節の場合はV'）

O：目的語（従属節の場合はO'） C：補語（従属節の場合はC'）

[]：名詞句・名詞節 ()：形容詞句・形容詞節 < >：副詞句・副詞節

働きを強め合っている。なぜならその方法の全てが言語を意味を生み出すのに使っているからである。②こうして子供たちは成長しつつある脳の奥深くへと導かれる。③子供は自分が考え、理解し、頭の中で強く望んでいるものを通じて、自分という人間を規定する。④このような自己規定を行う脳内構造を明らかにする力は、書くことによって子供たちに与えられる。というのは、その能力は使うことで形づくられていくものだからだ。⑤その能力は、他の人間が自分の手で書いたものの中で伝えようとしている意味を、なんらかの不思議な方法で明らかにせずにはおれないのだ。⑥子供たちは読むことを通じてこのことを発見し、そしてその時、発見した喜びとそうだとわかったことで、顔をほころばせることだろう。

■論理チャート■

- ❶ 1 読み書きの関係を理解する（テーマ）
読み書きは人間にとっては特別なもの
↓
音を利用して意味を象徴的に表すのは人間特有のもの
- ❶ 2 読み書きの目的は意味を生み出すこと
↓
子供がものを読む場合も同じ
- ❶ 3 だから専門家はテレビを批判
⇒テレビは受動的で読み書きに使われる能力よりはるかに劣る受動的な能力しか必要としない
- ❶ 4 読み書きは知能を使うことを要求
⇒読み書きは脳細胞を刺激する活動
- ❶ 5 人間は深層構造を理解するたった1つの能力を持つ
⇒音楽や運動は子供の内なる能力を豊かにする
- ❶ 6 ものを書く際に言語の問題に直面
⇒書くことを通じて子供は抽象的な意味を理解する
- ❶ 7 書くことを通じて読み書き能力はいっそう身についてくる
- ❶ 8 様々な言語の使い方は互いにその働きを強め合う
⇒こうして子供たちは自分の考えを知る

■100字要約■

読み書きはいずれも意味を生み出し、知能を十分に活用する作業であり、受動的なテレビよりもずっと優れたものだ。特にものを書くことを通して、子供は自分の思考を明確なものにでき、読み書きの能力が強化される。(99字)